

# 五感で体験できる岡谷蚕糸博物館 ～製糸工場を取り込みユニークな博物館に転身～

## ■リニューアルした岡谷蚕糸博物館

岡谷蚕糸博物館は平成26年(2014)8月1日に移転してリニューアル開館した。今までの博物館の収集・保存展示に加えて、動態展示に市内で操業中の(株)宮坂製糸所の生産設備をそのまま博物館に移転して繰糸体験を設けたことで興味関心が増す“生きた博物館”に生まれ変わった。



写真:岡谷蚕糸博物館正面

## ■博物館の展示紹介

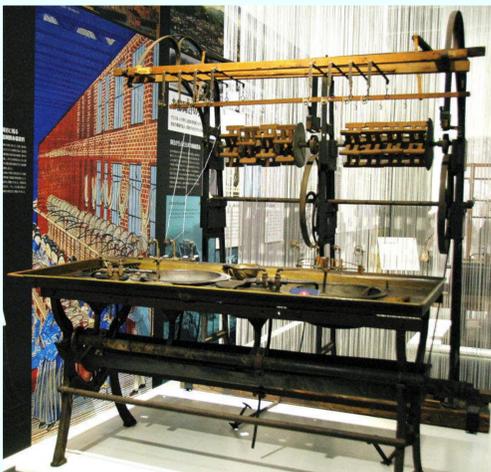


写真:フランス式繰糸機

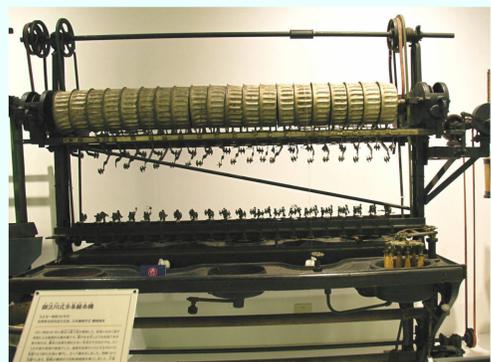


写真:御法川式多条繰糸機

館内の3つの区分。

①**ミュージアムエリア**:糸都岡谷ものがたりの歴史部門◆シルク岡谷への出発:富岡製糸場の創業や岡谷の発展に至るまでの紹介など。◆全国で唯一の製糸機械類の展示:富岡製糸場で使われた唯一現存のフランス式繰糸機は鉄製フレームに「百五十一」と記されている。残されたのは片倉製糸紡績(株)が昭和17年に御法川式多条繰糸機を導入したとき、フランス式繰糸機のうち2釜だけ片倉工業が保存収集した。御法川式多条繰糸機は明治40年に御法川直三郎が開発した画期的な繰糸で、繰糸の回転速度を遅くする代わりに条数を5倍に増やした。片倉製糸紡績でつくられた生糸はアメリカで絶賛された。多条繰糸機はわが国独自の開発技術として世界に普及し、自動繰糸機へと発展した。またフランスから導入したわが国第1号の



写真:第1号水分検査器

水分検査器の役割は、生糸の正量を出す方法として使われた。生糸は吸湿性良いため重量が変化するので生糸の無水量で取引する世界基準が決められた。水分検査器の側面に鶴、亀の図柄、フランスの田園風景が七宝焼きで描かれてた和様の意匠が特徴的である。

諏訪式繰糸機はイタリア式とフランス式の繰糸機を折衷して武居代次郎が開発した。またフランス式繰糸機の復元機は、繰糸機の動きを見ることができる。

②**動態展示エリア(製糸工場)**:宮坂製糸所は、岡谷市で伝統的方式で生糸を唯一生産している。博物館内に移転した宮坂製糸所は日本の製糸技術史を代表する諏訪式繰糸機、上州式繰糸機、自動繰糸機の三方式を稼働して生糸を生産している。

③**コミュニティ・ワークショップエリア**:養蚕スペースのカイコふれあいルームはカイコの育つ様子や繭づくりの観察ができる。博物館の愛称は「シルクファクトおかや」として新たなシルク文化を発信している。博物館は製糸機械類、文書類等約3万点を収蔵している。ここは日本の蚕糸産業の歴史を学ぶことができる。機会があれば訪問したい博物館の一つである。



写真:諏訪式繰糸機